

2024 年度第 2 回関東甲信越地方会勉強会報告

I. 日 時：2024 年 9 月 14 日（土曜日） 13:30～16:40

II. 開催場所：日本医科大学 橘桜会館

III. 参加人数：89 人（会員 85 人 非会員 4 人）

IV. プログラム

進行：横塚 基 先生（三井記念病院）

菊池 彩香 技士（三井記念病院）

今回の勉強会は、『開心術で用いられる血液製剤』をテーマとし「血液製剤における基礎」と「体外循環での血液製剤の使用法」について、教育講演とシンポジウムの 2 部構成で開催しました。

1. 教育講演：『開心術で用いられる血液製剤の基礎と PBM』

東京医科歯科大学病院 麻酔・蘇生・ペインクリニック科 助教 山本 雄大先生

教育講演は、「心臓血管外科手術と出血」「Patient Blood Management」「血液製剤と特徴」「目標指向型輸血アルゴリズム」の内容について講演していただきました。講演の中で、RBC 使用の根拠や血液凝固でのフィブリノゲン濃度指標など、ご自身の経験を交えながら分かり易くご教授をいただきました。まとめでは、制限輸血による輸血量が示されている中で、患者によっては Hb9-10g/dL とするために RBC を考慮していくこと。止血には、様々な細胞因子と凝固因子との相互作用が必要となるため、目標指向型輸血アルゴリズムによる PBM の実践が必要であると示されました。

2. シンポジウム：『体外循環で使用される血液製剤どう使う？』 施設発表／総合討論

- ・ アルブミン製剤について：埼玉医科大学総合医療センター 葉 優寿 技士
- ・ ATⅢ製剤について：埼玉県立循環器・呼吸器センター 鎌田 浩聡 技士
- ・ クリオ製剤について：東京医科歯科大学病院 高濱 拓 技士
- ・ RBC 製剤について：榊原記念病院 山下 雄作 技士
- ・ FFP 製剤について：昭和大学江東豊洲病院 神崎 俊治 技士

施設発表では、各製剤について演者の施設でどのように使用しているかお話しいただきました。総合討論では、「予防的投与と大量出血時投与について」と「術前・術中で確認すべき項目」から始まり、各血液製剤についての投与における基準となる値や投与量、最適なタイミングなど深掘りした内容で時間の許す限り行われました。

シンポジウムのメッセージとして、患者それぞれの疾患や全身状態を十分把握したうえで、使用する根拠をチームで共有していくことが大切であるとまとめられておりました。

当会では、体外循環に関わる内容で知りたいことや臨床上での疑問についてなど、参加された方が少しでも今後の業務に活かせるようなテーマを取り上げて、開催して参りたいと考えております。今後も勉強会へのご参加、何卒よろしくお願い致します。



進行：菊池技士 横塚先生



教育講演：山本先生



シンポジウム：葉技士 鎌田技士 高濱技士



シンポジウム：山下技士 神崎技士 山本先生



シンポジウム風景



会場風景



第31回地方会大会案内（長嶋大会長）

広報・情報担当幹事
小野 小林 初鹿野 神崎